合宿所　同窓会館「希望の鐘」
落成記念特集

昨年10月に同窓会館が完成しました。今号は、「同窓会館『希望の鐘』」と落成記念行事について、お伝えします。

合宿所　同窓会館『希望の鐘』の名称由来

県からの補助金が一切なく、同窓生からの寄付金・積立金のみで建設された、合宿所・同窓会館『希望の鐘』。この名称を決めるにあたっては、同窓会報で募りましたが、応募は一件もありませんでした。そのため、合宿所設置委員・同窓会役員を交えて、合同で会議を開きました。「同窓生の皆さんが納得してもらえる名称にしたい。」との思いが満ちあふれた会議でした。時間をかけ十分に話し合われた結果、校歌にも銘記されている、『希望の鐘』に決定しました。　この名称であれば、きっと皆さんに慣れ親しんでもらえると思っております。

なお、合宿所・同窓会館入口に掲げられている表札は、県との交渉・顧問県議さんへの説明等でご尽力をして頂いた（校長先生の交渉が無ければ、建設は難しく、基金凍結のままであったと学校としては考えています。）小林　清木校長先生にお願いをして、学校を代表として書いて頂きました。ありがとうございました。

同窓会報

2008年（平成20年）
３月発行
埼玉県立所沢高等学校
同　窓　会
所沢市久米1234
☎04(2922)2185

＝目　次＝

(1) 同窓会館『希望の鐘』特集
(2) 同窓会館『希望の鐘』特集
(3) 同窓会館『希望の鐘』特集
(4) 同窓会館『希望の鐘』特集
(5) 同窓会館『希望の鐘』特集
(6) 同窓会館『希望の鐘』特集
(7) 同窓会館『希望の鐘』特集
(8) 同窓会館『希望の鐘』特集
(9) 会員の皆さまへ
(10) 新入会員
(11) 在校生活動の記録
(12) 役員・会計報告・編集後記

落成記念式典・祝賀会

落成記念式典、落成記念講演会

◆第一部　落成記念式典

1、開式の言葉
2、校歌斉唱
3、挨　拶
　創立100周年記念事業推進委員会
　　会長　肥田埜　孝
　埼玉県立所沢高等学校長
　　小林　清木
4、祝　辞
　創立100周年記念事業推進委員会
　顧問・所沢市長　当麻　よし子
5、列席者紹介
6、合宿所施設贈呈
　閉式の言葉

◆第二部　記念講演会

1、講演者紹介
2、講　演
　「ことばで伝えたいこと」
　小説家・脚本家　竹山　洋　氏
3、お礼の言葉
4、花束贈呈
5、諸連絡

落成記念祝賀会

場所：所沢パークホテル

◆平成19年11月10日10時45分より、「合宿所 同窓会館『希望の鐘』落成記念式典」が、本校体育館で行われました。あいにくの雨模様の中、同窓生や創立百周年記念事業推進委員会実行委員および旧職員の方々が多数参加され、在校生やＰＴＡとともに、「希望の鐘」の完成をお祝いしました。◆第一部は、吹奏楽部によるオープニングファンファーレとともに始まりました。列席者を代表して、所沢市長の当麻よし子さんより、ご祝辞をいただきました。◆第二部は、脚本家・小説家の竹山洋さん（昭和40年卒業）による、「記念講演会」が行われました。竹山さんは、所高時代の思い出や在校生に向けてのメッセージを話されましたが、当時の所沢の街のようすがいきいきと伝わってくるもので、会場を感動に包みました。◆式典終了後、参加された皆様に、同窓会館がお披露目されました。◆「落成記念祝賀会」は、午後2時より、所沢パークホテル「白峰の間」にて行われました。厳粛な式典とは打って変わった、なごやかな雰囲気のうちに、記念行事が終了いたしました。

伊東同窓会副会長（左）と小林校長

式典会場遠景

当麻よし子さん

所高の先生方（同窓生２名含む）

左より田中ＰＴＡ、松本後援会、肥田埜100周年、当麻同窓会長

竹山　洋さん

高見澤事務部長

島田同窓会幹事

竹山さんに花束贈呈

世界にはばたく所沢高校へ

創立百周年記念事業推進委員会
会長　肥田埜　孝

本日は、合宿所同窓会館「希望の鐘」の落成記念式典が、このように盛大に開催できますことを、心よりお喜び申しあげます。

本校が、明治31年の「英和塾」以来、１０９年の長い歴史の中で、社会に貢献する大勢の方々を生み出してきたこと、また、それらの方々の熱意とお力によって、同窓会館が完成したということは、大変喜ばしいことでございます。また、同窓会館完成のためにご尽力された多くの先生方にも感謝を申し上げます。

思えば、昭和63年に同窓会記念館建設が計画されてから、約20年が経過し、ここに実を結んだわけでございます。これから、在校生の皆さんが、「希望の鐘」を十分にご利用いただいて、日本だけでなく、世界に通用する人間として巣立っていかれることと期待しております。また、皆さんの後輩の人達も、どうか立派に育ててやって頂き、次の時代、次の時代へと続けていってほしい、こんな希望もあるわけでございます。

同窓会館「希望の鐘」が完成しましたお祝いと、ご協力いただいた保護者の皆様、教職員の皆様、そして関係者の皆様への感謝を申しあげて、ご挨拶とさせて頂きます。本日はおめでとうございます。

（式典のあいさつ文を、要約いたしました。）

同窓会館「希望の鐘」落成記念式典に出席して思い出すあれこれ

同窓会副会長　木下武文（昭和37年卒業）

昨秋、同窓会館「希望の鐘」（当初の仮称「百周年記念館」）が落成。これにより、所沢高校百周年記念事業が漸く終結しました。

創立百周年記念事業推進委員会発足（昭和62年1月24日）から落成まで、20年9ヶ月を要しました。また、所沢高校が「英和学舎」として誕生（明治31年）してから、１０９年目に当たり、推進委員会が記念館建設の完成を目指した創立百周年（平成10年）での建設は、諸事情により見送られ、9年遅れての完成になりました。

落成までの様々な出来事、建設延期になった諸事情を振り返えると、所沢高校自体の変転に満ちた長い歴史に思いが至ります。百年の歴史を締め括るべきこの記念事業もまた様々な障害に遭遇し、紆余曲折し、長らくこの事業に係わった者として落成記念式典の場に身を置き、感慨深いものがありました。

私が母校所高に赴任したのは、昭和56年、37歳の春。「創立80周年並びに新校舎落成記念式典」が行われた年でした。学園紛争後の荒廃から立ち直り、自由と活気に満ちた教育活動が展開され、新校舎建設、図書館改造工事、重層格技場建設が進み、所高が大きく変わろうとしていました。

私は、所高出身の教員ということで、同窓会係の仕事に携わり、同じ所高出身の先生方と協力し、学園紛争以来停滞していた同窓会活動の充

実を図りました。20年後の創立百周年を見据えて、組織再編、同窓会名簿作成、長らく途絶えていた同窓会報発行に力を注ぎました。こうして、「記念館建設」を中核とする百周年記念事業の基礎固めをすることが、所高での私の主な仕事になりました。

当初は、講堂を取り壊した跡地に記念館を建設する計画でした。木造の講堂は火災や地震時に問題があるとの県当局の考え方に基づいたものでした。講堂を取り壊した場合、部活動等の教育活動に支障が出るため、体育館2階ギャラリー拡張の必要が生じ、県当局に「体育館増改修工事早期実現」の陳情を2回実施。地元県会議員、関係役員の方々とともに陳情書を携えて県当局へ赴き、副知事にも同席いただき、所高の施設の貧弱さを訴え、百周年記念事業の意義を説き、その早期実現を陳情。「事情はよく分かりました。百周年記念ということではなく、実現に向けて努力しましょう」との回答でした。「百周年記念ということではなく」との表現が気になりましたが、陳情から2年後に改修工事が行われ、陳情は功を奏しました。

ところが、この陳情活動に相前後し、平成3年、埼玉県公立高校父母負担額が全国で突出している（全国平均の3倍）との文部省調査結果が発表され、「県内公立高校寄付負担ズシリ全国一！」の大見出しが新聞に踊りました。「現在ある施設は木造でもそのまま使用し、父母負担による新たな施設の建設は認めない」との方針で、県下一斉調査が実施され、所高の記念館も後援会特別会計にその建設資金の一部を依存するものだったので、資金計画を含め建設計画全面修正を迫られました。

その後、記念館建設の見通しをつけるべく対県折衝を続けましたが、思うに任せず、一方、同窓会の寄付募集状況は、バブル経済崩壊の影響もあって、予想を下回る結果で、寄付募集期間延長を余儀なくされました。

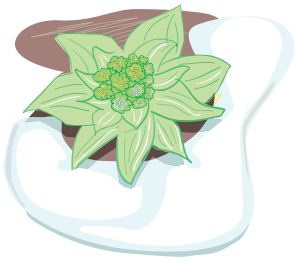
そうこうするうちに、所沢高校単位制導入問題が紛糾。記念事業は臨時休業状態に陥りました。更に、入学式と卒業式をめぐる一連の騒動が勃発。奇しくも、創立百周年の平成10年は、この騒動の真っ只中という事態になりました。紛糾する所高問題の解決と記念事業の取り扱いについて、同窓会、後援会、PTAの関係者が会議を重ねましたが、事態はますます混乱。胃の痛くなる日々が続きました。職員会議が頻繁に開催される中、連日「百周年記念誌」編集作業を続けました。そして、更に、衝撃的な事態が発生。記念事業推進委員会の本橋俊男会長の逝去です。百周年を目前にして、関係者が全幅の信頼を置いていた会長を失い、途方に暮れました。結局、百周年記念式典を延期。この年は緊急措置として記念コンサートだけを所沢ミューズで開催しました。

このような事態になり、同窓生から、「記念館はいつできるのだ！」とのお叱りを再三いただき、心苦しい限りでした。翌平成11年、私は、人事異動で、18年間勤務した所高を去ることになりました。しかし、翌年度も毎週のように転勤先の高校から所高に通い、「百周年記念誌」編集、「百周年の集い」の準備等を手伝い、2校同時勤務のような状態でした。

入学式・卒業式問題が嵐のように過ぎ、創立101年目の平成11年、「所沢高校百周年記念誌」が刊行され、「所沢高校百周年の集い」が開催されました。県当局は「所沢高校は県立高校になってから百年は経っていない」との立場ですが、記念事業推進委員会としては「英和学舎」誕生（明治31年）を起点にしているので、「埼玉県立所沢高等学校」の名称を使わず、「所沢高校百周年記念」とした経緯があります。以前、体育館増改修工事早期実現の陳情の際に「百周年記念ということではなく」と言われたことが思い出されました。結果的に、「所沢高校百周年の集い」は、所高らしい、内容の濃い、「手作り」の記念行事として大成功裏に終わり、多くのみなさんに満足していただけました。

その後8年にわたり、一つだけ残された百周年記念事業である記念館建設の実現に向けて、粘り強く対県折衝が続けられ、漸く、具体化が進み、校歌の一節からその名をとって、同窓会館「希望の鐘」が落成に漕ぎ着けられたことに、多くの関係者が、心から喜び、安堵しているものと推察します。

まだまだ語り尽くせず、話がまとまりませんが、この記念事業にご尽力いただいた方々、ご協力いただいた多くの方々に心より感謝しながら、筆を擱きます。



「所沢高校創立百周年の集い」から合宿所・同窓会館「希望の鐘」落成記念式典が挙行されるまでの経緯

三上　恭央
（本校教諭・昭和61年卒）

創立百周年行事『百周年の集い』から９年、私も 母校に赴任して既に９年の月日が経過しました。私が母校を卒業した翌年（昭和62年）に故本橋俊男様を初代会長に迎え発足した、創立百周年記念事業推進委員会や同窓会の仕事を長年に渡ってしてこられた木下先生に代わり、何も知らない私が着任したのでした。着任当初は何をしていいのか全く分からず、ただただ原田先生の仕事をサポートしていただけだった様な気がします。その年の実行委員会・総会で『創立百周年記念式典』を開催することが決まりました。仕事内容をよく理解してない私がぼーっとしていたのに比べ、隣にいた原田先生が、真剣な顔つきになっていたことを、今でも記憶しています。木下先生が転任した後、原田先生が同窓会係の代表となっていたからでした。その後慌ただしく11月の式典に向けて校内での準備が始まりました。私も母校のため、できる限りの仕事をしなくてはいけないとの思いに駆られました。

当時の所沢高校は、卒業・入学式問題のまさに渦中でした。（今では、平穏に他の学校と同じ様な卒業式と記念祭が行われています。）そのため「式典」という名目で開催することに対して、学校外から難色を示す意見が寄せられました。様々な混乱を回避するために、「所沢高校創立百周年の集い」という名称に変更して、２０００年度の同窓会報でご報告させて頂いた通りに盛大に開催されました。その後、推進委員会の人数を60名程度に縮小し、記念会館建設問題に絞った組織に改組しました。しかし、問題は山積していました。寄付金が思ったより集まらず、また校内に新たな建物を造ることも難しくなりました。そのため当初の計画（講堂を壊しそこに同窓会館を建設する）を大幅に変更せざるおえなくなりました。拡大実行委員会を何度も開きました。その結果、記念会館単独建設を断念し、校内合宿所設置検討委員会と連携し合宿所内に同窓室兼資料室を設置するという結論に至りました。

その後、何度も県へ合宿所の建設をお願いしましたが進展がないまま数年が経過しました。その間、推進委員会会務を同窓会が代行・臨時会費廃止・引当金廃止・最終的には百周年基金凍結（１３０、８３１、６９５円）という全く身動きが取れない状況になりました。凍結という総会判断を受け、私は当時会計の遠藤さんと、埼玉りそな銀行に貸金庫契約に行きました。初めて入る貸金庫に戸惑いながら、遠藤さんと一緒に通帳と印鑑を保管したことを昨日のことの様に覚えています。遠藤さんと「このまま１００年間凍結かもしれませんね」と、冗談とも本当ともなりうる話を貸金庫内でしました。

凍結したまま、３年間何の変動もありませんでした。事態が動き出したのは平成17年１月でした。

前事務室長の大河原さんをはじめとした様々な方の県への交渉の結果、県教育局委員会から合宿所建設に当たっての確認事項の調査がありました。木下先生や原田先生に協力してもらいながら、創立百周年記念事業基金調査確認事項を作成し、旧合宿所・給食棟の老朽化についての書類を作成し、写真も貼付して教育委員会へ提出しました。

平成17年４月、現校長でいらっしゃる小林清木先生が着任されました。小林校長先生には、更に粘り強く教育委員会に交渉して下さったり、顧問の県議さん事務所等を訪問して連携して下さったり、と各関係多方面との多くの交渉をして頂きました。その交渉の末、教育委員会から更なる調査依頼がありましたので、平成17年度には何処に合宿所を建設するのが一番適切なのかということを、校内候補地を３箇所提示し、おのおのの箇所におけるメリット・デメリットを併記し、それぞれ写真を撮影したものを提出しました。また、それと同時に合宿所建設場所に関する学校としての見解書も作成し提出しました。

これら提出書類や写真に加え、事務部長さんと校長先生が教育委員会

に更に交渉を重ねて頂いた結果、平成17年10月県より、創立百周年記念事業基金の凍結を解除し、合宿所建設に当たっては『百周年記念事業基金』だけで行うという許可を得たのでした。「これでやっと、寄付金や積立金に協力して頂いた同窓生の方に顔向けができる」と思いました。この時の喜びは今でも忘れません。

この後は忙しい中にも、喜ばしい仕事が続きました。平成18年1月には臨時拡大実行委員会を開き、校長先生から同窓会役員の方々へ説明をして頂き、合宿所・同窓会館建設に向けての一連の仕事を校内の合宿所設置委員会に一任して頂くことと、創立百周年記念事業基金凍結解除をして頂くことの承認をして頂きました。平成18年5月の同窓会総会・百周年総会を経て正式に基金解除が承認されました。それからは高見澤事務部長さんにお骨折りを頂き、設計業者を入札で決定し、合宿所設置委員会で試行錯誤を繰り返し設計図を仕上げました。設計図完成後、建設業者入札・決定。平成19年3月下旬に着工。10月下旬に検査後に学校に引き渡されました。

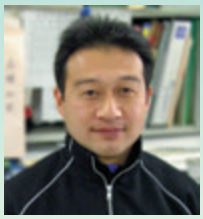
創立百周年記念事業推進委員会が発足して21年、なんと長い年月。念願の合宿所・同窓会館「希望の鐘」、が完成したのでした。ついには、平成19年11月10日（土）に合宿所・同窓会館「希望の鐘」落成記念式典・祝賀会を皆様のお陰をもちまして開催することができたのです。

役割を終えて

長々と経緯を書かせて頂きましたが申し訳ありませんでした。数年前に思ったことですか、創立百周年記念事業推進委員、また母校の教諭・同窓会役員としての私の役割は、『同窓会館「希望の鐘」落成記念式典でテープカットのテープを拾うこと（清掃）をもって完了する。』との思いでした。様々な方のお陰を通じて、合宿所・同窓会館「希望の鐘」落成記念式典を挙行することができました。正直申し上げてホッとした気分です。大げさに言うと、母校に教員として赴任した使命は、『同窓会館建立実現』であった様な気がしてなりません。今、その任を果たすことができ、私の役割も一段落致しました。

今後は同窓会役員として、母校の更なる発展を支えていきたいと思っております。

同窓生ならびに所沢高校教職員の皆様、今後も母校『所高』を宜しくお願い致しいたします。ありがとうございました。



「希望の鐘」ができるまで

合宿所設置委員会委員長　近藤　勉
（本校教諭・昭和57年卒）

念願の合宿所・同窓会館が完成し、平成19年11月10日に所沢市長のご臨席を賜り落成記念式典を挙行することが出来た。長年要望していた施設の建築許可がようやくおり、本格的に設計に入ったのが2年前であった。当初、食堂や講堂と合わせて建設したいと考えていたが金銭面等の折り合いがつかず現在の位置に決定した。本校は校舎内に空き教室がなく、会議や補習の場所が取れないことから多目的に使える合宿施設をつくろうというコンセプトを掲げた。実際に計画が始まってみると限られた予算及び狭い敷地の中でより使い勝手のよい物を作るために、会議や業者との打合せにかなりの時間を費やした。また、設計、建設中にも多くの問題点が見つかった。例えば、地質の調査の際に多量のゴミが見つかり撤去費用がかかったり、防火水槽が埋まっており移設には数百万単位の費用がかかることが分かった。結局、防火水槽を避けて場所を少し移動して建設することになった。予想外の出費がかさみ、モダンなアーチ型の屋根が付くはずであったが残念ながら現在の陸屋根になった。さて、中身であるが、一階は、同窓生の気持ちを込めて力を入れて計画した同窓会室と会議室。プロジェクター等も完備している。二、三階は各階に風呂、トイレ、管理室、研修室がある。

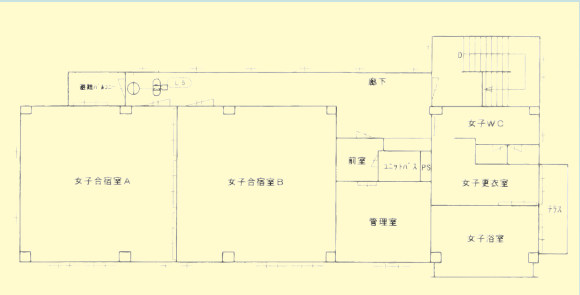
研修室は多目的に使えるようフローリングとした。会議室と研修室は二部屋に仕切ることができ、使い勝手が良いようにと移動しやすく、コンパクトに収納できる椅子、テーブルを購入した。会議やバレーボール部の合宿で使用したがコンパクトながら使い勝手もよく自己満足している。また、本当に完成したという喜びに浸っている。

ここまで来られたのも同窓生や歴代管理職のご尽力があったからと感謝している。この施設の名称を校歌の一部から取り「希望の鐘」と決定した。同窓生や生徒にどんどん使って貰い、所沢高校発展のため希望の鐘を鳴らして欲しいと考えている。

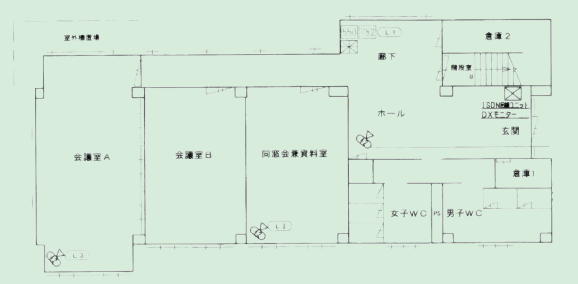
『希望の鐘』紹介

同窓会ホームページに、紹介ｍｏｖｉｅがあります。
ぜひ、ご覧ください。

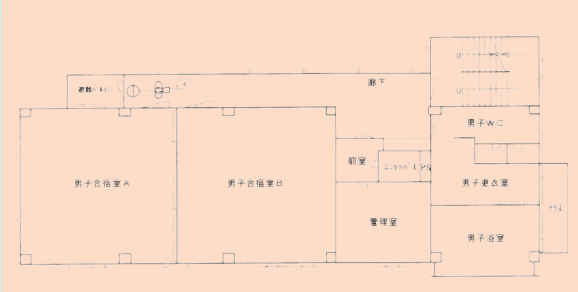
３Ｆ



１Ｆ



２Ｆ



２Ｆ男子合宿室

同窓会室内部

表札

１Ｆホール

１Ｆ会議室

同窓会室入口

西武線から見た「希望の鐘」

３Ｆ女子合宿室Ａ

同窓会室内部

どんどん活用しよう

同窓会会長　当麻　実（昭和36年卒業）

西武池袋線の電車から母校がよく見えます。正門、講堂は昔のままです。その講堂の隣に同窓会館「希望の鐘」が昨年11月に竣工しました。線路際の会館の壁には、所沢高等学校の文字がくっきりと輝いて見えます。

この同窓会館は、所沢高校百周年記念事業の一つとして20年前から計画されていました。今年は母校創立からはや110年になります。この間、同窓生のみなさんから記念館建設のための寄付金に多大なご協力をいただきました。すでに百周年記念事業として、記念コンサート、記念講演会、記念誌の発行などは成功裡に終了しています。

ただ長い年月のなかで、県の父母負担金の軽減の動きなどがあり、記念館建設は紆余曲折の苦難の道がありました。しかし、創立百周年記念事業推進委員会のみなさんをはじめ多くの関係者のご努力で、念願の同窓会館「希望の鐘」が完成しました。

同窓会館の名称「希望の鐘」は、校歌にある「希望の鐘は鳴り渡る」から命名しました。昨年11月の落成記念式典のあと、3階建ての会館を見学しましたが、1階は同窓会室、会議室、2階・3階は合宿所、補講室などがあります。部活で合宿する生徒のためにバスルーム、洗濯機、冷蔵庫なども完備しています。実にうらやましい設備です。

私が高校生のとき、バスケット部で米空軍のジョンソン基地(現在の自衛隊入間基地)の高校生と試合をした後、汗を流すシャワー室、足で踏む冷水機をみてショックをうけたことがあります。いまでは日常生活では当たり前ですが、当時の貧しい私たちの生活では考えられない設備です。

小林校長に「鍵」を贈呈する当麻会長（左）

同窓生のみなさん、母校でのたまり場「同窓会の部屋」ができました。また在校生にはいたれりつくせりの合宿所もあります。これをどんどん活用してたくさんの思い出をつくって欲しいですね。また所沢高校同窓会の公式ホームページも昨年から開設しています。これもぜひクリックして、同窓生仲間の輪を広げて母校の発展にご協力ください。

「希望の鐘」を強化合宿で使用して

女子バスケットボール部顧問　内藤　史朗

この3年間、県大会で1勝することが悲願であった女子バスケットボール部である。今年は県大会を前にして、年明けの3日から強化合宿を「希望の鐘」で行えることは、勝利を約束されたも同然であった。この同窓会館の建設に注ぎ込まれた、所高100年の歴史と母校を愛する多くの同窓生のエネルギーを、部員に体感させることができるからである。

強化合宿は、県内の強豪チームを招いての実践的な練習試合が主流であった。どんなに負け続けても、夕方から宿泊できる同窓会館のぬくもりは、部員達に安息と明日への希望を与えた。しかし、とにかくハイテクな宿泊施設である。戦う集団として、勝負をするには、恵まれすぎた環境であったかもしれない。悲願は春の関東大会県予選に持ち越された。

この強化合宿を終えて私は次の事を確信した。一つは、この同窓会館「希望の鐘」が、希望と平和を表す「伸びゆく青年像」とともに、所沢高校の大きなシンボルとして親しまれていくことである。二つめは、新2世紀の所沢高校の生徒にとって、必ずや高校時代の良き思い出を作り出す場所となることである。

最後に、同窓会館「希望の鐘」の完成に携われた、創立百周年記念事業推進委員会の皆様に心からお礼を申し上げたい。そして記念祝賀会で見せた三上先生の同窓生としての熱い涙に、敬意を表したい。本当におめでとう。

内藤先生（左端）と女子バスケットボール部員一同

叙勲受章

熊田繁夫さん（昭和37年卒）

平成19年秋の叙勲で瑞宝単光章を受章されました。

同氏は昭和37年当校を卒業・西武鉄道に入社、以来四十数年にわたり尽力し多大な功績を残されました。

一方では華道の家元教授として大勢の方を指導する傍ら、写真でも県展に連続入選・今年は二科展に入選するなど幅広い活動をされています。そして我が地研部ＯＢ会の幹事を十数年間受け持ち企画運営をされています。この度の栄に際し11月30日飯能プリンスホテルに大勢の友人が招かれました。

壇上には地域研究部恩師・宮澤功衛先生が最もお好きな椿の花を中心に、お花のお弟子さんによる生け花が見事に飾られました。また友人のマジックショーでは、おめでたい品々が飛び出し会場を沸かせました。

熊田氏は受章の喜びを「まさか自分が受章するとは思ってもいませんでした。高齢の両親に伝えられた事が一番の喜びです。」と語ってくれました。そして先生から、長年支えてくれた奥さんと二人の受章ですとの温かいお言葉とともに

万葉集より

もみち葉の
過ぎまく惜しみ
思ふどち
遊ぶ今夜は
明けずもあらぬか

（大伴家持）

の一首がお祝いの言葉として贈られました。

地域研究部ＯＢ会一同お祝い申し上げます。

地域研究部ＯＢ会
粕谷　滋（昭和35年卒）

お知らせ

所沢高校同窓会ホームページ

http://www.tokoko-dosokai.jp

○主な内容は　・歴史写真館　・校歌、応援歌　・同窓会報バックナンバー　・著名な同窓生　・会員交流のページ　・クラス会の連絡、報告などです。

◇会報バックナンバーは、次のＩＤ・パスワードを入力のうえ、開いてください。

ＩＤ：**tokoko**　　パスワード：**midorino**

会員交流のページは、ホームページから個々に登録することで、使えるようになります。

◎お願い
・幹事さんへ：クラス会の開催予定や、楽しい報告がありましたら、ぜひお知らせください。

ＨＰ開設の目的は、会員の皆様への情報提供ですが、それ以外に、現役の所高生や所高を受験しようとしている中学生への情報発信にも役立てば、と考えています。
どうぞ、ご協力をお願いいたします。

同窓会総会開催のお知らせ

日時：平成20年５月10日㈯
　　午後１時半
場所：所沢高校会議室
多くの皆様の出席をお待ちしております。
なお、出席されるかたは、恐縮ですが、4月末日までに校内係へ電話連絡をお願いします。

役員の皆様へ
当日の午前10時より役員会を行う予定です。
詳細については、別途ご案内いたします。
多数の役員のかたの出席をお待ちしています。

- 『所沢高校百周年記念誌』、写真冊子『所沢高校百年の歩み』、校歌・応援歌・商業学校学生歌・女学校朝会歌を収録したＣＤ、百周年記念テレフォンカードをご希望の方は、所沢高校内の同窓会事務局までご連絡ください。
- クラス会、同期会など開催する場合は同窓会事務局までご連絡ください。情報提供などのお手伝いをいたします。また、記事として同窓会報に掲載させていただきたいと思います。
- 同窓会報で取り上げて欲しい話題などありましたらご一報ください。また、同窓会報への投稿も大歓迎です。ご遠慮なくご連絡ください。お待ちしています。
- 住所変更等の場合はハガキなどの文書でご連絡ください。
- 同窓会名簿の取扱いに御注意をお願いいたします。

NICE TO MEET YOU! 2008・3 卒業です どうぞよろしく

三年間の力

平成20年3月卒業
細田　翔郁

私はこの3年間で、精神的にも肉体的にも大きく向上できたと思う。「継続は力なり」ということわざがあるが、まさにそれを実感することができた。それは、入学してすぐにソフトテニス部に入部し、基礎体力を上げようと毎朝ランニングを続けたことがとても大きい。

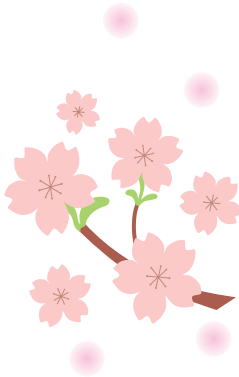
始めの頃は体力もなく、短い距離ですぐに苦しくなってしまい、走り続けるのが大変だった。でも、どんなに辛い時も走るのをやめようとはしなかった。自分に負けたくなかったからだ。その結果、3年生になった時は比べものにならないほど長い距離を走れるようになっていた。何より、続けることがひとつの自信として大きく残っていた。この自信が部長として部をまとめる力にもなっていたと思う。

自分の決めた事をやり続ける事の難しさ、苦しさを知り、その苦難に耐える忍耐力をつけることができた。

これから私は大学に入学し、たくさんのことに興味や疑問を持つだろう。そのひとつひとつのテーマに対し研究することになると思う。所沢高校で過ごした3年間で身に付けることのできた忍耐力を自分の糧として、物事を研究していきたいと思う。

最後に、このような充実した3年間が送れたことは、友だち、家族、そして指導して下さった先生方の支えがあったからだ。今まで見守ってくれた人たちに本当に感謝している。ありがとうございました。

（男子ソフトテニス部、東京薬科大学生命科学部進学）



所高生活の楽しみ方

平成20年3月卒業
伊澤　唯

所高生活の楽しみ方は沢山ありますが、私は部活で高校生活を楽しんできました。毎日楽器を吹き、同じ仲間と活動した吹奏楽部は私を大きく変え、人として成長させてくれました。1年生の時は素直に部活を楽しみ、2年生の時は沢山の壁にぶつかり、3年生では人の上に立つ難しさを知りました。特に、先輩という立場になった2、3年生は、とても辛く大変な時期でした。しかし、このように辛い時や逃げ出したい時に支えてくれたのは、やはり部員である仲間たちでした。みんながいたから最後までやり遂げられたのだと思います。大好きな仲間と、大好きな楽器に囲まれて過ごした3年間は、とても幸せでした。

長期にわたって大勢の人たちがひとつの目標に向かっていくということは、部活以外ではなかなか経験できないと思いますので、部活に入って本当によかったと思っています。部活以外でも所高のみんなはフレンドリーで楽しくて、所高生になれてよかったとしみじみ感じる毎日です。

（吹奏楽部、明治大学経営学部進学）

在校生活動の記録

弓道部
・第５回埼玉県武道大会西部支部予選１位・２位・３位
・第20回県民総合体育大会弓道部女子個人５位
・第34回所沢市民弓道大会高校初級の部優勝、上級の部優勝
・第17回西部支部弓道高校選手権大会団体の部優勝
・第48回所沢市青少年三道大会弓道優勝

陸上競技部
・団体少年の部西部地区予選会女子ヤリ投げ２位
男子400ｍハードル７位
女子三段跳び７位
男子三段跳び８位

男子バレー部
・四市支部高等学校バレーボール技術講習会１年生の部２位
・西部支部技術講習会１年生の部２位
・西部支部バレーボール秋季大会３位
・西部支部バレーボール優秀選手２名

男子ソフトテニス部
・四市高校生ソフトテニス大会２位
・第５回フジ・ヨネックス杯争奪ソフトテニス大会３位
・四市高校生ソフトテニス大会個人戦優勝

女子ソフトテニス部
・四市高校生ソフトテニス大会２位
・四市高校生ソフトテニス大会女子個人戦２位、３位
・総合体育大会市町村対抗ソフトテニス大会団体戦女子の部３位

男子バドミントン部
・第28回入間地区高等学校バドミントン大会男子団体Ａブロック３位

新体操部
・西部支部新体操大会団体２位、個人フープ８位、10位
個人クラブ９位、10位
個人総合９位

野球部
・所沢市内大会準優勝

柔道部
・第48回所沢市青少年三道大会３位

剣道部
・第48回所沢市青少年三道大会剣道２位、敢闘賞

書道部及び書道選択者
・第46回埼玉県硬筆展覧会特選
・第23回成田山全国競書大会推薦日輪賞
・第31回学芸書道全国展優秀団体賞１名、理事長賞２名、硯心会奨励賞８名

吹奏楽部
・埼玉県吹奏楽コンクールＤの部県大会優良賞
・埼玉県吹奏楽コンクールＤの部地区大会金賞
・埼玉県吹奏楽コンクールＡの部県大会銀賞
・埼玉県アンサンブルコンサート地区大会打楽器六重奏銀賞、サックス四重奏銀賞

フォーク部
・第３回高校生創作音楽コンテスト審査員奨励賞

ギター部
・第38回全日本ギターコンクール合奏部門銅賞、重奏部門銅賞
・全日本中学・高等学校ギターフェスティバル　合奏部門銅賞、重奏部門金賞、奨励賞
・全国高等学校総合文化祭派遣埼玉県代表団体選考会カンタービレ賞

美術部
・平成20年度全国高等学校総合体育大会所沢市総合ポスター・プログラム表紙デザインコンクール最優秀賞、優秀賞、佳作
・第50回埼玉高校美術展奨励賞

第58回埼玉県高等学校英語スピーチコンテスト審査委員長賞

早稲田大学創立125周年記念シンポジウム「子どもの未来と大学」作文コンクール優秀賞

弦楽部（６校合同オーケストラとして出場）
・全国高等学校総合文化祭派遣埼玉県代表団体選考会アンサンブル賞

2007年度（平成19年度）同窓会役員

（2007年５月12日役員会で承認）

役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年
顧問	柳井　潔		監事	岡村能成	47	常任幹事	川名美代子	44
顧問	藤宮顕夫		常任幹事	小沢郁夫	29	常任幹事	大野由喜子	46
顧問	堀江完吉		常任幹事	小杉正司	32	常任幹事	駒井光明	50
顧問	五十嵐美智子		常任幹事	島田孝男	33	常任幹事	桑原　浩	54
顧問	肥田埜　孝		常任幹事	秋谷　穣	36	常任幹事	原田久夫	54
相談役	河内八千代	23	常任幹事	八木勝利	36	常任幹事	大石健一	59
相談役	肥沼金治	30	常任幹事	稲葉純子	37	常任幹事	三上恭央	61
会長	当麻　実	36	常任幹事	上原芳江	37	常任幹事	秋田　孝	62
副会長	木下武文	37	常任幹事	大河原勝次	39	常任幹事	村山泰崇	H6
副会長	松本明信	38	常任幹事	横山勝津彦	39	校長	小林清木	
副会長	岩岡民枝	29	常任幹事	加藤幸造	40	事務局	佐竹まゆみ	
副会長	伊東トシ子	38	常任幹事	本橋栄三	43	事務局	田沼文恵	
会計	滝島孝一郎	43	常任幹事	古谷真一	43	事務局	恒川真美	
会計	石井里子	37	常任幹事	岸　晴男	44	事務局	榎元俊介	60
監事	森田　貢	32	常任幹事	富澤行雄	44			

2006年度（平成18年度）同窓会決算報告

1.　収入の部

科目	予算額	決算額	増減	摘要
(1) 会費	4,236,000	4,200,000	36,000	入会金且終身会費(12,000×350名)
(2) 雑収入	50,000	7,631	42,369	利子　百周年記念誌の売上げ等
(3) 繰越金	5,995,256	5,995,256	0	前年度より繰越し
計	10,281,256	10,202,887	78,369	

2.　支出の部

科目	予算額	決算額	増減	摘要
(1) 事業費	3,800,000	3,275,187	524,813	卒業記念品 会報編集,印刷費 会報発送費 百周年記念事業関係費 HP作成・維持・管理
(2) 会議費	150,000	19,794	130,206	役員会・総会お茶代、謝礼　他
(3) 事務費	900,000	20,870	879,130	郵券・葉書代 会報等郵送代 消耗品、旅費
(4) 諸費	350,000	38,700	311,300	慶弔費 等
(5) 予備費	5,081,256	10,800	5,070,456	部活動大会記事掲載料
計	10,281,256	3,365,351	6,915,905	

差引残高（収入決算額 － 支出決算額）
10,202,887 －3,365,351＝6,837,536 円　（次年度へ繰越）

定期預金
4,000,000 円(埼玉りそな銀行所沢支店)

以上監査の結果誤りのないことを報告いたします
２００７年（平成１９年）　５月　１日
会計監事 森田　貢
会計監事 岡村能成

2007年度（平成19年度）同窓会予算

1.　収入の部

科目	今年度予算額	前年度予算額	増減	摘要
(1) 会費	4,212,000	4,236,000	△ 24,000	入会金,終身会費(12,000×351名)
(2) 引当金	4,000,000	0	4,000,000	定期預金より引当
(3) 雑収入	50,000	50,000	0	利子、追加入会、会員名簿売上等
(4) 繰越金	6,837,536	5,995,256	842,280	前年度より繰越し
計	15,099,536	10,281,256	4,818,280	

2.　支出の部

科目	今年度予算額	前年度予算額	増減	摘要
(1)事業費	4,800,000	3,800,000	1,000,000	卒業記念品（証書入れ） 会報編集費、会報発送費 百周年記念事業関係費 ホームページ作成・維持管理 合宿所完成祝賀会
(2)会議費	150,000	150,000	0	役員会・会報編集会議等
(3)事務費	900,000	900,000	0	郵券・葉書代、会報等郵送代 消耗品、旅費、備品(パソコン等)
(4)諸費	350,000	350,000	0	慶弔費 記録写真代、写真データ整理
(5)合宿所整備費	6,000,000	0	6,000,000	備品等の購入、机、イス、ソファー パソコン、周辺機器　等 合宿所で必要な備品整備
(6)外壁エンブレム寄贈費	500,000	0	500,000	役員会・会報編集会議等
(7)積立金	2,000,000	0	2,000,000	定期預金(埼玉りそな銀行所沢支店)
(8)予備費	399,536	5,081,256	△ 4,681,720	
計	15,099,536	10,281,256	4,818,280	

上記のとおり提出いたします
２００７年度（平成１９年）　５月１２日
埼玉県立所沢高等学校同窓会
会長 当麻　実

編集後記

所沢高校の同窓会活動が今日あるような形に整えられたのは、創立百周年記念事業に向けての準備がスタートした頃のようです。

今年度、記念事業の中心である同窓会館「希望の鐘」が完成し、同窓会報も23号を数えるまでになりました。これからも気持ちを新たにして、会報の内容の充実に努めていきたいと思います。会員の皆様の積極的な参加をお願いいたします。

なお、それ以前の会報として、「雲雀野ニュース」、さらに「校友会報」というものがあったときいています。もし、保存されている方がおられましたら、ご一報くださるとありがたいです。

同窓会事務局一同

会報題字

駒井光明氏（昭和50年卒）
毎日展審査会員

印刷　有限会社　研文社
☎04(2942)1589

１００周年事業会計について

100周年記念事業基金　130,918,871円

この基金については、合宿所建設費として支出させていただいています。詳しくは、平成20年度の百周年総会をへて、同窓会報第24号にて報告いたします。

創立100周年記念事業推進委員会
会長　肥田埜　孝